

【そのII】

# 稲荷塚古墳と山ノ神古墳も市指定史跡に —古墳を大切に保存しましょう—

前号にひきつづき、今回、新たに市指定史跡に指定した稲荷塚古墳と山ノ神古墳をご紹介します。

## 稲荷塚古墳

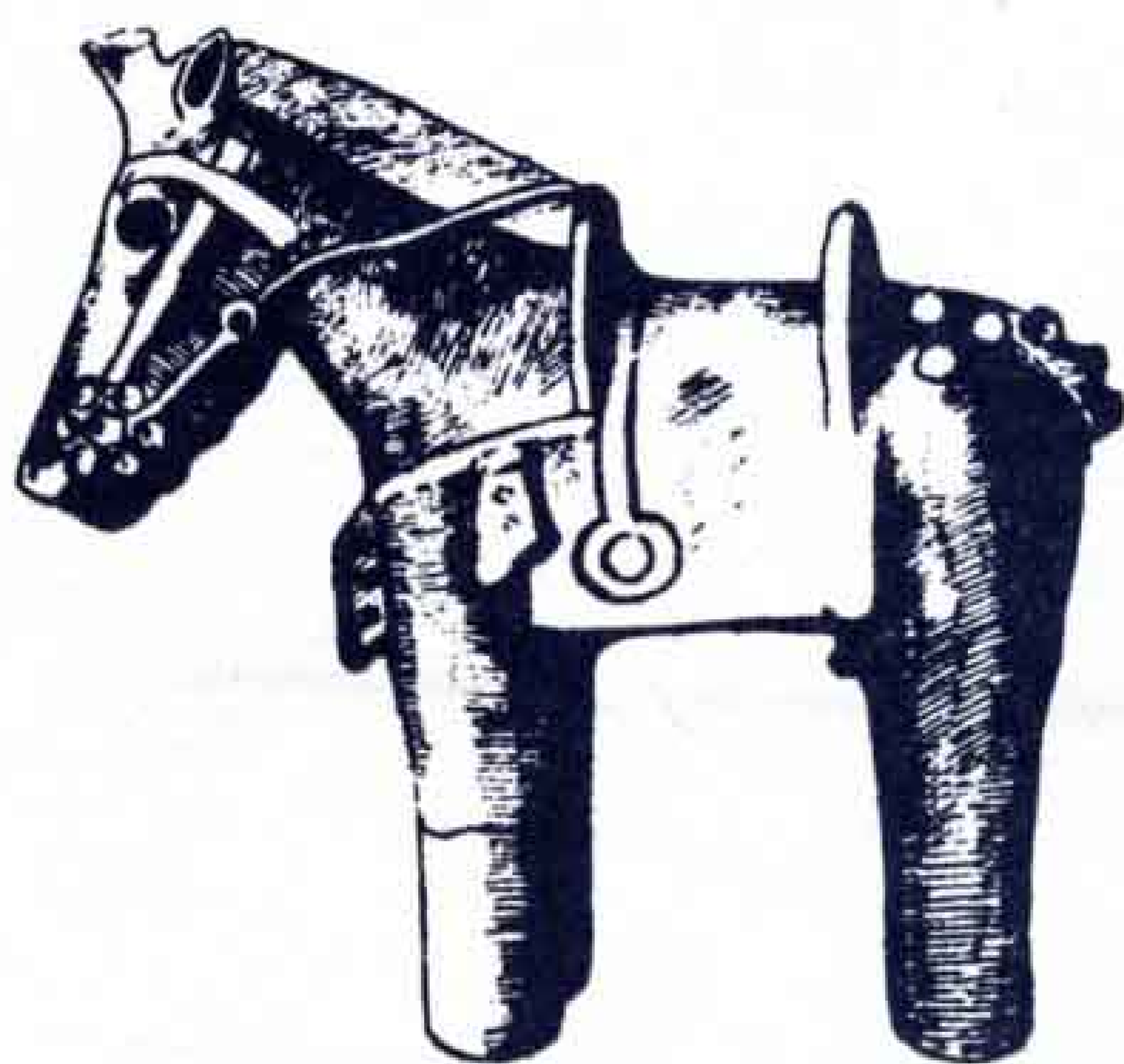
■史跡 稲荷塚古墳（船津古墳支群 L第73号墳）

- ・員数 1基
- ・所有者（管理者）秋山光雄さん
- ・所在地 富士市船津651~1
- ・現状及び内容  
海拔40㍍、春山川の河谷原に位置

する円墳で径9㍍、高さ1.8㍍で、内部主体石室部が露出開口している。石室は安山岩の自然石を用いた乱積無袖形の横穴式石室で長さ6㍍、入

口巾1.1㍍、中央底巾1.3㍍、奥壁底巾1.2㍍、天井巾中央0.6㍍、奥壁天井巾0.7㍍、高さ入口0.7㍍、中央部高さ1.21㍍、奥壁部高さ1.23㍍ある主体の方向は北に対し4度東に偏する。

封土は、主体中央部が最も厚いJ10号墳（千人塚古墳）と小規模ながらほぼ形式は同じである。後期古墳。



【稲荷塚古墳】

## 山ノ神古墳

■史跡 山ノ神古墳（東田子浦砂丘古墳支群M第2号墳）

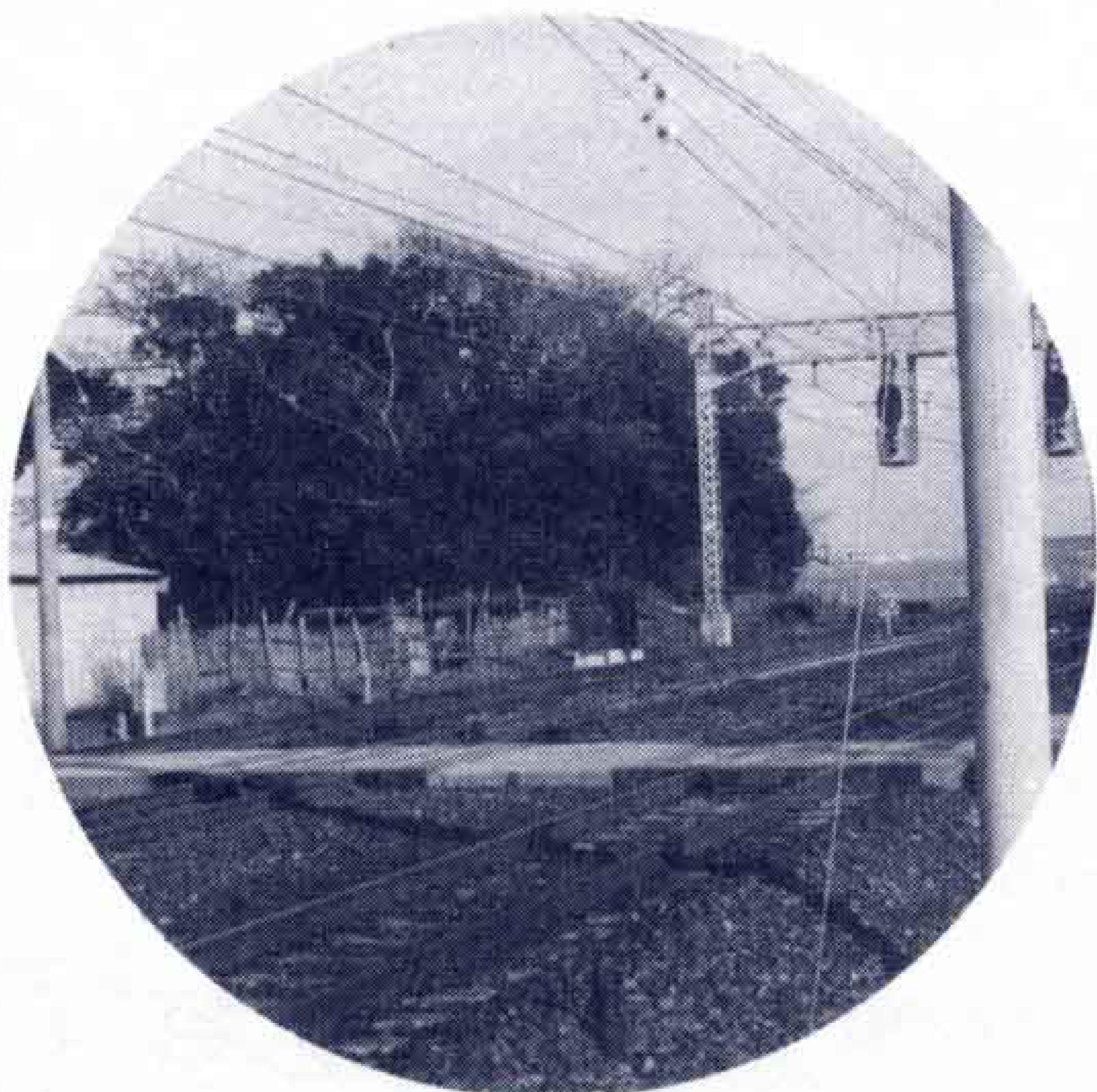
- ・員数 1基
- ・所有者（管理者）  
山ノ神神社
- ・所在地 富士市  
柏原新田字山ノ神
- ・現状及び内容

墳丘は南側で鉄道線路のため全体の約3分の1が削りとられている。前方部は古くから開墾されて畑となって

おり、原形は著しくくずされていて明らかでないが、畑の形から東西に長い長方形となっており、前方部のあまり発達しない形のもものが想定される。

墳丘全面に径15~20㍍の浜石が敷きつめられている。また、円筒埴輪片が出土することから墳丘のまわりに円筒埴輪列がめぐらされていたことが考えられる。その他、墳丘面及び周域から須恵器の破片がかなり出土する。

後期古墳。



【山ノ神古墳】

明るいあいさつを  
かわしましょう  
毎月第3日曜日は家庭の日

庚申塚古墳の東方約150㍍、海拔5㍍の砂丘地に占地する前方後円墳長軸41.6㍍、後円部の径21㍍、高さ3㍍、前方部の長さ18㍍、同巾15㍍